



一步、前進

高中体育祭、ここにあり

第69回高瀬中学校体育祭が、4年ぶりにほぼ従来の姿で開催された。職員・生徒の努力はもちろんであるが、PTAや地域の方々のご理解ご支援があったればこそその開催であり、感謝の気持ちで一杯である。

高瀬中学校は、「運動会」ではなく「体育祭」であることにこだわってきたと思っている。競争的な部分はもちろんあるものの、それだけではない、伝統文化の継承、一つ一つの演技を通じての多様なパフォーマンスの発揮、内面のエネルギーの解放などを大切にしてきた。まさしく「祭り」の一つの特質を学校という教育の場で具現化したものとして受け継がれてきたのである。

それにしても、コロナ禍による3年間の多くの制限は、学校にとってまさに試練だった。学校行事はもちろん、部活動での大会や練習の中止・規模縮小・制限など、子どもたちにとって貴重な成長の機会であったものがことごとく影響を受けた。日々の学校生活・授業もしかりである。自分らしさや多様性を特に大切にする学校で、一年中マスクを着けた生活による影響は計り知れない。個性の埋没・コミュニケーション力や表現力の低下なども大いに危惧された。そういう中で、子どもたちは腐ることなく、前向きに考え、学校としてもやれる範囲の中で工夫して様々なことに取り組んできた。そんな姿勢が端的に示されたのが、2年前の生徒会スローガン「反撃開始～こんな所じゃ止まらない～」ではなかったかと思う。

体育祭に話を戻そう。制限された中での3回の体育祭への取組は、決してつじつま合わせのものではなく、あくまで理想を追求し、未来を築いていこうという気概を込めたものだったのだと思う。そうした先輩たちの思いを受け継いだ現高中生の姿を見せてくれたと感じている

午前の部のパフォーマンスもよかったが、やはり午後からの「Freedom 2023」（1年生）、「関東総舞黎」（2年生）、「ソーランBeat」（3年生）、「FREEDOM」（全校生）、そして教職員やOBも加わってのアンコール総踊り。一人ひとりの笑顔あふれる表情と躍動感がすべてを物語っていた。誇らしかった。ありがとう。

（校長:佐藤 浩二）